

オマケの「3回目走行」に参加者は大満足

CMSC埼玉 ジムカーナ練習会

'89第1回CMSC埼玉、埼玉三菱コルト合同ジムカーナ練習会が、4月30日に茨城中央サーキットで行われた。当日は好天に恵まれ、CMSC埼玉の会員をはじめ三菱車ユーザーなど60名余りが参加した。

開会式の後、まず慣熟走行。その後にCMSC埼玉で活躍中の佐藤一彦選手による模範走行。参加者はジッと走りを見つめ、さっそく1回目にトライした。すでにジムカーナを経験しているユーザーも多く、ほとんどがミスコースなしの走行。各自がタイムを仲間と比べ合うなど、競技会にも負けない熱の入れ方に、オフィシャルも真剣そのもの。

昼食をはさんで行われた2回目の走行は、1回目のタイムを上回ろうと気合いが入ったせいか、ミスコースやパイロンタッチが多くなった。オフィシャルも右に左に汗だくで、ギャラリーの声援にも力が入る。そして、予定時間よりも早く2回目終了したため、3回目のチャレンジが行われ参加者も大喜びだった。

ジムカーナ人気も徐々に上がり、今回の練習会は大いに盛り上がりました。参加者の皆さん、オフィシャルの皆さん、どうもお疲れ様でした！

(CMSC埼玉 事務局)



▲CMSC埼玉のメンバー以外にも、三菱車ユーザーが多数集まった。



▲熱気にあふれるバドック。



▲慣熟走行もそれぞれ真剣。

'89CMSCチャレンジカップ栄冠は誰の手に？



1~5月の集計を見ていると、昨年トップであった山形を福島がわずかながら1歩リード。また、昨年元気のなかった岐阜は強力なメンバーを加えて大健

闘中。目立ったところとしては、スラロームといえはダートトライアルが多かったのですが、今回はジムカーナへの参加が多数あったことです。また、レース

部門でも、ミラージュカップだけでなく、P-3000への参加もありました。今後各フィールドでCMSC勢のより一層の活躍を期待します。

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
帯広	355				355
札幌	0				0
青森	0				0
山形	458				458
仙台	10				10
福島	470				470
栃木	64				64
群馬	225				225
埼玉	51				51
岐阜	112				112
島根	157				157
香川	335				335

●ラリー・ドライバー部門

渡辺 俊昭	山形	86
菅野 茂	福島	72
小山 和邦	埼玉	30
佐藤 一彦	埼玉	21
船津 康一	群馬	20
塩野谷浩光	群馬	12
福本 光志	帯広	10
本田 弘	岐阜	2
伊藤 実	岐阜	1
浅野 博考	岐阜	1

●ラリー・ナビゲーター部門

佐藤 忠宣	福島	96
蔵本 隆充	埼玉	30
瀬々 徹	埼玉	21
若林 和昭	群馬	20
中村 洋次	帯広	10
粥川 秀昭	岐阜	3

●スラローム部門

青沼 達也	帯広	176
須田 行雄	福島	160
荒井 信介	群馬	152
高竹 優之	香川	114
櫛田 正文	岐阜	80
高橋 正喜	福島	80
白井 修	香川	72
杉山 敏夫	山形	66
伊吹 浩明	帯広	65
小野 隆徳	香川	51

●レース部門

小川日出生	山形	164
竹田 恒生	山形	36
東江 誠	山形	34
郡司 義光	栃木	32
川口 法行	栃木	18
山口 茂	栃木	14
木村 政義	山形	6
佐藤 政一	仙台	2
相沢 いく	埼玉	2

●ポイントのつけ方

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
ポイント A	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	0
ポイント B	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0

A = ラリー……全日本選手権、JMRC地区最上級シリーズ
スラローム……全日本スピード行事選手権、地方スピード行事選手権、JMSシリーズ
レース……全日本選手権、地方選手権、ミラージュカップ
B = それ以外の競技会
↑リタイアには予選不通過も含む

※編集部の手不際から、集計ができていないクラブがあることをお詫言いたします。(編集部)

モータースポーツ22年 東北の雄 小川日出生



小川日出生 (おがわ ひでお)

昭和24年6月6日生まれ、40歳。18歳のときコルト800でジムカーナに出場して以来、ギャランGT0、ランサー、初代ミラージュ、コルディア、そしてギャランVR-4、ミラージュ・サイボーグと、三菱車でラリー、サーキットレースを闘い続ける。サザンクロスラリー(オーストラリア)出場の実験もあり、現在はミラージュカップに出場中。RSオガワの代表でもあり、モータースポーツ用車両の供給などを通じて若手の育成にも精力的に取り組んでいる。

私の家はオヤジの代から三菱のサブ・ディーラー(村山ビジョン自動車)だったから、私も自然とクルマの世界に入った。モータースポーツを始める直接のキッカケは、高橋国光さんのような当時のレーサーにあこがれていたからですね。高校で自動車を勉強して、三菱に就職し、すぐにモータースポーツ活動を始めました。

当時、私の初任給は1万5,000円、そのとき、3万円円でコルト800の中古車を買って、ジムカーナ仕様にして初めて競技に出た。今から22年前のことです。3年ほど東北や北関東のジムカーナを転戦しました。A54ギャランが発売されてからは三菱自動車としてのラリー活動が本格的になり、当時、私が三菱のスポーツキットを組んだギャランのラリー仕様とジムカーナ仕様がディーラーに展示されたりもしました。

昭和48年にランサーが出ると、私もラリーに出るようになった。CMSC山形が発足したのも、ちょうどこのころです。ランサーは今でも「世界の名車だった」と思っています。そして、昭和50年に平田さんのナビとしてサザンクロスラリーに出場しました。結果はリタイヤだった。これは自分の中でもくやしい思い出ですね。

その後、オイルショックがあったりしたわけですが、56年にランサーターボが出て、三菱ファンを喜ばせてくれた。うちでも17台のランサーターボをラリー仕様に仕上げました。その翌年、私も全日本ラリー戦に再び参戦し、コルディア、ギャランと乗り継いだ。現在はレースに出場していますが、三菱のクルマが本当に素晴らしいものになったと感じています。

結局、22年もモータースポーツにかかわってきたわけですが、本当に多勢の人に助けられ、CMSCのメンバーの皆さんとともに楽しい時を過ごせたと思います。もちろん、苦勞したことも多かったです。いろいろな意味で苦勞を味わうことが人生をもっと楽しくしてくれる材料だと思っています。物質的に(マシンやパーツに関して)恵まれている今の人は、私なんかと思うと「果たして本当にシアワセなのか」と感じてしまう。

これから先の人生も、走れる限り走りたい。高橋国光さんも「挑戦する心があるうちは走れる！」と語っていますが、私も同じ心境です。今年ミラージュカップのエキスパートシリーズにもエントリーしますし、耐久レースやグループAも出てみたい。まだまだ、やりたいことはあるし、心の中は「子供」です。

編集部から

モータースポーツシーズンもいよいよたけなわ。全国からCMSCメンバー大活躍の朗報が続々と入り、CMSCジャーナルの編集担当者はうれしい悲鳴をあげています。CMSCジャーナルは「皆で作る手作り」の会報ですから、メンバーの皆さんの活躍は編

集担当者の喜びでもあります！

そこで、各支部の事務局の方とメンバーの方にお願ひ申し上げます。イベント報告、身近な話題などCMSCの活動に関するネタを、どんどん編集担当まで送って下さい。また、今回は「パドックインタビュー

」としてCMSC山形の小川さんを取材しましたが、このコーナーは折を見て掲載する予定です。「私を取材してほしい！」とか「ぜひ、この方を」とかいったご要望にお応えしたいと思っておりますので、ぜひ、ご協力をお願いします。